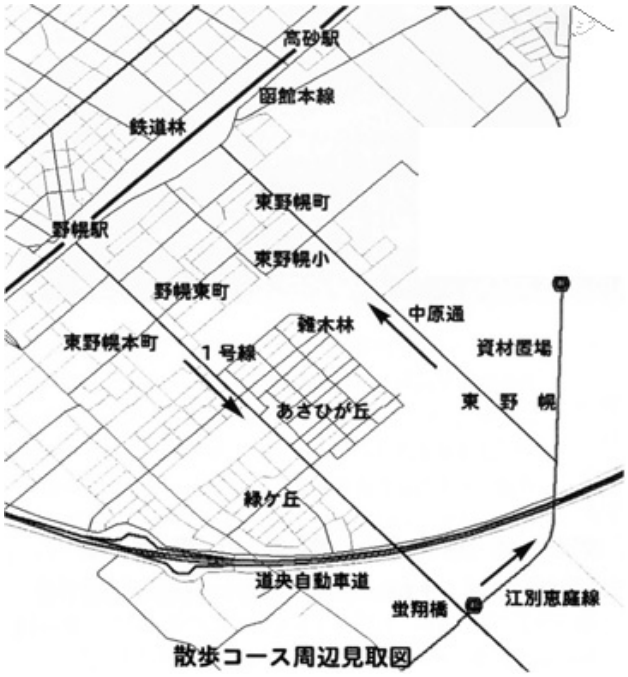
私の探鳥地（４９）（野鳥だより 138 号 2004 年 12 月）

「野幌周辺」

松 原 寛 直

野幌に住んで 20 余年、自宅が野幌駅南口の近くにありますので、早朝の散歩がてら、また、ちょっと時間のある時に手軽に足を運んでいる探鳥地をご紹介しましょう。最大の探鳥地は大沢口から入る野幌森林公園（原始林）ですが、ここは本会の定例探鳥地であり、皆様も十分ご存知なので割愛いたします。

まず、同じ原始林の中でも登満別口から入る一周約 3km のカラマツコースの途中にある原の池です。ここは松川の池や大沢の池と異なり、まだ十分水量があり、カイツブリの子育てや、カワセミ、オシドリ、マガモ、アオサギ等々をかなりの確率で楽しむ事ができます。



散歩コース周辺見取図

また、図に示したように、野幌駅南口から 1 号線沿いに野幌東町、あさひが丘の住宅地を通り、江別恵庭線に出てから江別方向に向って（まっすぐ進むと南幌町に至る田畑・草原地帯となります）約 1km 程行き、次には通称中原通りと呼んでいる田舎道に入り、東野幌町の住宅地を抜け、旧国道（鉄東線）を南口まで戻って来る約 6km の散歩コースの住宅地の中でも、庭木にスズメ、ヒヨドリはもとより、シジュウカラ、ヤマガラ、カワラヒワ等々が姿を見せ結構楽しませてくれます。特に東野幌小学校のグラウンド脇から続く雑木林と中原通り左右（東野幌）の田畑・草原が格好の探鳥場所です。春夏秋冬を通して、本会の野幌探鳥会で顔を見せる大半の鳥たちが出現するのには驚かされます。こんな住宅地の傍でと・・・。春にはウグイスが囀り、カッコウが色気の無いことに電線や農家のアンテナに停まって鳴きます。堆肥の上にはコウライキジが出て来たり、潅漑用水路をカワセミが行き来し、螢翔橋下の小川ではイソシギが遊んでいたりします。01 年 6 月にはアマサギまで目撃しています。秋にはカワラヒワの大集団が群れ、冬にはレンジャクで賑ぎわいます。しかし残念なのは、開発行為で住宅地が延長されて来るにつれ、鳥たちの住み家が狭められ、営巣していたと思われるヒバリやオオジシギがめっきり少なくなってきていることです。

アオサギのコロニー

自宅から車で10分位の所で通称5丁目通り沿にある後藤遺跡の雑木林にアオサギコロニーがあり、毎年3月中旬頃にやって来て子育てをしております。3、4年前からは例のペリカンも姿を見せ、アオサギの巣の隣りに陣どりちょっかいを出している姿も見ることができます。すぐ下に世田豊平川が流れ、エサも豊富で、アオサギのうちには何羽か越冬するものもおります。

南幌親水沼周辺

温泉好きの方ならすぐにわかると思いますが、江別市から千歳川に架かる江南橋を渡り、南幌町に入ってすぐ左手にある南幌温泉の横に、地元の人が親水沼と呼んでいる沼があります。この3月、オナガガモの大群に混り、ミコアイサが13羽も入っているのを見つけました。私は今まで一度にこれだけの数のミコアイサを見たのは初めてなので大感激でした。

角山周辺

少し淋しいのは、豊平川と石狩川の合流点近く、角山地区の一番奥にある食肉加工場周辺で、時期になればトビの大群の中にオジロワシやオオワシの姿も見ることができたのに、加工場の操業停止？とほぼ同時ぐらいにオジロワシやオオワシはおろか、トビさえも稀れにしか見られなくなったことです。あれだけ群れていたトビはどこへ行ったのでしょうか？また、今年の8月中旬頃には、函館本線高砂駅近くの鉄道林で営巣したのでしょうか、何度もチゴハヤブサが子連れで送電線に停まっているのを目撃しました。

これまで述べたことは観察データを取ったものではなく、あくまで散歩途中の私の個人的主観であり推測であることをお断りしておきます。なお、「アオサギのコロニー」、「南幌親水沼周辺」、「角山周辺」の事例に関しては、本会会員である山口和夫氏と同行し、二人で一喜一憂しながら観察しているものです。これらの他に私が足を運ぶ探鳥地は、中津湖、越後沼、江別市を流れる石狩川、夕張川、千歳川、又街中の大麻中央公園、湯川公園、泉の沼公園等々近くに多数ありますが、詳細は後日の機会に譲ります。

最後に野鳥ではありませんが、前述の雑木林でエゾリスを見かけたり、資材置場の材木の上で子ギツネが日向ぼっこをしていたり、親ギツネが近くの農家から失敬して来たのかニワトリを銜えて畑を歩いているのを目撃したりしました。この地区はまだまだ豊かな自然が残っておりますが、最近報道されている本州のクマ問題や下北半島脇野沢村の猿害問題を見るにつけても、人々の生活権との関わり、開発行為と自然環境保護に関する問題はこれからも各地で起り得る難しい永遠のテーマだと思います。いつまでも野鳥はじめ多くの動植物が自然のままの姿を保ち、人と共生できる世界を願ってやみません。